

# 18春闘の「大敗北」を受け止め、新生JR東労組運動を創り出そう

JR東労組中央本部は、現在の組織実態と労使関係を直視し、その指導責任を厳しい相互討論で振り返り18春闘総括議論を行いました。

格差ベアに「反対」することや格差を「是正」といった方針は間違いではないものの、18春闘における格差ベア「根絶」方針は、到底貫徹できない要求であり、労働組合が掲げる要求ではなかったことを振り返りました。その過程においては、おかしいと思いつつも先頭に立つ指導者に追従してしまった結果、職場の組合員の声を受け止めず、方針貫徹に向けた議論を職場に押しつけていたことも明確にしてきました。我々が打ち出した18春闘の方針や戦術で現在の組織実態と労使共同宣言の失効が生み出されたと反省し、18春闘は「大敗北」と総括しました。

また、中央本部が組合員にどのように見られているのかについて、職場の求めている運動から乖離し「自分たちのやりたいことばかりやっている」と意見が出されました。本部が出した方針をいかに貫徹させるのかという態度が官僚的役員を生み出してしまったと、組合員の声を受け止め、これまでの運動を反省していくことを議論しました。

2020年のオリンピック・パラリンピックが控える中、JR東日本でストを構えることは、政府や会社にJR東労組を弱体化させる決意をさせ、ご利用いただくお客さまやそこで働く仲間にとっても大変な不安を与えてしまったと反省をしています。今春闘のように組合員の声に基づかない格差ベア「根絶」などといった、貫徹できない要求のためのストライキは今後構えるつもりはないことを確認してきました。

また、18春闘の過程において、一部指導部が嘘や偽りで役員・組合員を組織化していた事実が次々と発覚しています。中央本部は、そのような者たちとは毅然とした態度で立ち向かい、12地本の真の団結を最先頭で切り拓いていきます。

多くの組合員に不安を抱かせてしまった労使関係について、中央本部は労使の信頼関係を自らが壊してしまったという立場に立ちました。労働組合がストライキ権の確立を背景に団体交渉することは一般的にも行われていることです。しかし、JR東労組には、平和条項第70条と労使共同宣言があり、団体交渉が終了していない時点でストライキを予告することでそれを踏みにじってしまいました。その反省に立った上で、労使関係の正常化に向け奮闘していきます。

- 平和条項第70条と労使共同宣言を逸脱した経緯-----
- 1/31 一律定額のベアを求めた申13号で「定額以外の実施方法は将来にわたって行わないこと」で対立
  - 2/ 9 定期中央委員会を開催しあらゆる闘争戦術の行使を決定
  - 2/16 闘申1号『所定昇給額』を算出基礎にしないベースアップの実施等を求める緊急申し入れ』を提出
  - 2/19 非協力闘争として「争議行為予告通知」を厚生労働大臣、中央労働委員会と会社に通告
  - 2/19 闘争指令第3号「18春闘における「非協力闘争」に関する東京地方本部への闘争指令について」発出
  - 2/23 闘申1号第1回交渉開催

現在多くの施策が出されています。会社施策に対しては組合員の雇用と利益を守るために「安全・健康・ゆとり・働きがい」を対置し、職場現実や組合員要求を把握して、時間軸を持って真摯に施策と向き合っていくことを確認しました。

しかし、労使関係は力関係です。多くの組合員がJR東労組に加入し、組織が強化されてこそ要求が貫徹されていきます。一人でも多くの再加入が要求を貫徹する力になるのです。団体交渉が出来ない社友会や組合がない会社では働く者の利益が守られないのは言うまでもありません。安全で安心して働ける職場を創るために、全組合員で組織拡大へ向けた実践を共に創り出していきます。

18春闘を機に多くの組合員から平和運動や政治活動に対し意見をいただきました。これまでのトップダウンの運動と決別し、全系統の組合員の声に基づき、職場環境改善はもとより、組合員の雇用と利益を守る運動を第一に推し進め、必要な取り組みはしっかり納得をしてもらってから進めていく新生JR東労組運動を創り出すことを目指していきます。

JR東労組に残ってよかったと実感でき、仲間がJR東労組に戻りたいと思える、組合員が主役の新生JR東労組運動を全組合員で創り出していきましょう！